

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100012		
法人名	医療法人徳政堂		
事業所名	グループホームゆい		
所在地	岩手郡岩手町大字江刈内6地割8番地9		
自己評価作成日	平成25年11月12日	評価結果市町村受理日	平成26年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/03/i/index.php?act=on_kouhyou_detail_2013_022_ki_hon=true&Ji_gvosyoQd=0392100012-00&Pr_efQd=03&Ver_si_onQd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益財団法人 いきいき岩手支援財団
所在地	岩手県盛岡市本町通三丁目19番1号 岩手県福祉総合相談センター内
訪問調査日	平成25年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

母体は医療法人であり、診療所、介護施設、居宅支援事業所などの事業所を運営しており、医療面での支援が充実している。また、町内の中心部に位置し買い物や地区イベントへのアクセスが非常に近く機動性が高い。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者と職員の関係が良く、利用者の些細なことでも報告、連絡、相談をして欲しいと言われているため、話がしやすいと職員は感じている。また適切なアドバイスもしてくれると、職員の顔も明るい。訪問調査時は、利用者も柿の皮をむくなどで料理に参加し、食事後は皿の片づけに参加している。食事中は、職員と利用者の皆さんの穏やかな会話や笑顔が印象的で温かい家庭の食卓を感じた。食事の献立は、利用者の意見を聞くなどで担当者が1週間ごとに作成し、利用者個人個人の好みも踏まえてきめ細かな配膳を行っていることもあり、利用者全員が残さず食べていた。共有空間は、12月を感じさせるクリスマスカラーをたくさん取り入れ、クリスマスの到来を楽しんでいるようである。利用者との共同制作の作品もあちこちに飾られているほか、笑顔のスナップ写真も沢山壁面を飾りつけて楽しんでいただけた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見直し、3年目になるが、基本的方針に変更はない。今後は職員に浸透しやすいよう簡略化した表現を職員と共有していく。	「ゆい」のサービスを基本として、利用者そして家族に密着した支援を目指して運営に当たっている。本年度の反省を見つめながら必要であれば改めていきたいと考えている。理念はホーム内に掲示してケアに生かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域ボランティア団体による定期的な訪問、季節行事にあわせた交流会などを積極的にとりいれている。	町内会に加入している。地域の夏祭りや子供会の行事には、事業所を開放して利用者とともに楽しんでいる。婦人サークルの歌や踊りのボランティア、傾聴ボランティアも受け入れ、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護事業所やボランティア団体を通じ、家族からの相談に随時応じている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域行事の情報や交流会のきっかけを頂いたり、ホームへのアドバイスは適切にサービスの向上に役立てられている。	2ヶ月に1回、家族代表、行政、地域の方々に参加していただき開催している。サービス評価を議題として協議するほか、各委員の所属団体、町内会や民生児童委員等の情報も参考にして、地域との交流の在り方のヒントを貰うなど、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや保健推進係とは、認定更新、健診・予防接種など、直接ホームに配布してもらうなど密な協力関係にあり、普段から情報のやり取りをおこなっている。	入退居状況報告や相談等で協力関係は密なものとなっている。また、窓口を訪れ直接文書を届けるなどをしながら、さらなる関係作りを継続させるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての勉強会を行っており、止む終えない場合でも「まんねり」な行為は行っていないし改善できるよう常に見直しを行っている。	年1回身体拘束の勉強会を開き、職員間で確認をしあっている。マニュアルも、独自の物を作成している。夜間せん妄のある利用者があり、医師の処方により服薬投与をされているが、ホームの細やかな観察を医師へ報告することと利用者に寄り添った細やかなケアで見直しにつながり、状況は徐々に改善されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で勉強会を行っており、職員の言動が気になるときはお互いに注意できる環境にある。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度対象者は現在入所していないが、制度について周知しており、事例が発生すれば活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、制度改正、料金改定時においても手紙でお知らせし、重要事項を再度説明し納得を得ている。入院など解約時はその後のケアも行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望、希望はお互いの思いを調整し会議などですぐ検討している。年1回のアンケート調査も実施しており、事情を把握した運営につなげている。	年1回家族に対する無記名のアンケートを実施している。集計結果は運営推進会議で報告をしている。玄関にある意見箱には一度も投函されたことはない。毎月のホーム利用料を支払うために来所する家族に声がけをして、意見や要望等を表してもらえるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部署ミーティング以外にも日常的に対応しており、決済が必要なものは法人の運営会議で改善できるよう努力している。24年度はエアコンを設置。	毎月1回部署ミーティングを開催して、意見や要望を聞いている。職員からの聞き取りでも、管理者に対して話しやすく意見や要望も伝えている。法人の運営会議には管理者が出席して、職員から出された意見や提案等を反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員がやりがいを持って仕事に取り組めるよう日常も意見を聴取し、環境を整えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会は毎月行い、スキルアップを図る。資格取得の為に要望も極力実現できるよう調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会に加盟しており必要な情報は得ている。研修は必要に応じ検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が施設を見学できるよう配慮し、不安が解消できるよう要望も把握できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、事前訪問を実施し、納得できる状態で受入れを行っている。また、長期的ニーズも予測しアドバイスをを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の変化を見逃さず介護ニーズを把握し、家族に説明しながら最適な対応に心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	作業は共同で行い、本人が楽しく過ごせる雰囲気と気兼ねなくものを話せる環境に勤めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の言動などから思いを察し、家族と共同で支えることが出来るよう関係を構築している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や散歩、イベントへの参加はもちろん、面会者を介して多くの交流が実現できるよう交流を促している。	食材の買い出しには馴染みの店に利用者とともに出かけている。散歩やイベントで出会った馴染みの方達には、職員からホームに遊びに出かけていただくようお願いをして、馴染みの関係が継続するような配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者個々の性格や個性に配慮しつつ、お互いに負担のない馴染みの環境が構築できるよう調整を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も関係機関と情報交換しながら、安住の場が確保できるよう継続支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意欲が向上し、お互いが信頼できる関係を築くことが出来るよう、早期に対応し実現に向け調整を行っている。	職員は利用者との関係を密にして、日常生活の中から思いや意向を汲み取り、対応している。また利用者や家族から聞き取ったことは業務日誌に記して、職員同士、共通認識のもとケアに生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人に合った接し方が出来るよう、生活歴や生活環境の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違う行動や気分を察し、身体的・精神的感情が汲み取れるよう洞察している。また、レク、作業などから有する能力を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員を中心に計画の評価を行い、それぞれが感じていることを検討し計画に反映している。現状と評価は家族に説明し思いは計画に反映している。	各職員は利用者3名の担当者となっている。ケアプランの評価は、担当者を中心に検討を重ね、寝たきりにさせないケアに努めている。家族の意見や要望も組み込んで、3ヶ月ごとに見直しをしているが、状態に変化が生じた場合には随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	心身の状態は申し送りで把握し、日誌や個別記録に記載している。状態に合わせて日課の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ここに住んでいる感覚でものが話せ、望みが実現できるよう柔軟なサービスを心がけている。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	身近なボランティア団体による慰問、子供会との交流を図り、地域行事への個別参加も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	設置主体は医療法人であり、訪問診療、訪問看護などの協力体制を整えている。眼科受診、歯科往診など医療ケアは充実している。	法人の病院がかかりつけ医となっている。月2回の法人医師の訪問診療と、週1回の看護師の訪問を実施している。歯科は往診で対応し眼科、皮膚科はそれぞれの病院で診療を受けているが、家族の要望で職員対応がされているなど、医療連携が良くとれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護以外でも、電話での情報交換など適切に判断対応できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院後の対応などは入院治療前に協議し家族に説明できる体制で医療機関と調整を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	健康状態・家族の意志を含め柔軟な対応が可能となるよう協議できる態勢にある。	看取りの指針も作成しており、その時期が来たときには対応が出来る体制は出来ている。職員も研修を重ねて理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療従事者と密接な関係を築けており、入居者の状態に応じその都度指導を受けれる態勢にある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消火訓練に参加するなど職員の防災に対する意識は高く今年度は4回の訓練を実施している。また、防災対策マニュアルの見直しも行った。	消防署に隣接した立地にあることもあり、災害対策にはこれまでも意欲的に取り組んできている。防災対策マニュアルの見直しもされている。夜間想定訓練も実施しているが、実際に夜間の避難経路の足場確認までには至っていない。	夜間の避難訓練に取り組みきたい。また、災害時の避難経路や避難場所を確認し、利用者はもとより、家族にもそのことを周知するよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	信頼関係を築き、頼られる存在になれるよう日々努力している。	個別の書類は、部外者や利用者の目に触れない場所、鍵のかかる書庫で保管されている。家族からの電話の取り次ぎは事務室や子機を使用して居室で対応している。居室の中が見えないように、入り口にカーテンを取り付ける等配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望や思いが自然に話せる生活環境に努め、側面的支援に心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	促し時の拒否的行為も本人本位で捉え、体調や精神的負担が理解できるよう、業務にとられず気付ける知識の習得に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各自が必要としている物品はそろえ、いつでも使えるよう整備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、調理、盛り付けなど、個々の能力にあわせ手伝ってもらい、季節感のあるメニューを取り入れている。	利用者に希望を聞いてメニューに反映させている。食器は、一般家庭で使われている陶器のもので、テーブルは職員も一緒に囲み同じ物を食べ、和やかな話とともに全員が完食した。利用者は柿の皮むきや食事後の後片付けなどに参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの嗜好、摂取能力を考慮した食事を提供し、時間に追われない時間を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、週1回の除菌を行う。ケア用品は各自のものを準備している。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本とし、パターンの把握、自立への支援を行っている。	排泄パターンを把握し、定時誘導や、動作を観察しながら誘導する場合もある。トイレ使用を基本としている。リハビリパンツを利用している方は4名いるが、その方達もトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンを把握し、食事や水分、運動の推進と下剤管理でコントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の定期入浴の他、清拭、シャワー浴を行っている。就寝前の足浴にも対応可能。	週3回入浴を楽しんでいる。なかには、嫌がる方もいるが時間をずらしたり、言葉かけを工夫しながら全員が入浴し、清潔保持に努めている。異性介助で対応することもある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調不良、寝不足など毎日の状態に応じ休息を取り入れ、各自の就寝時間はまちまちに対応可能。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容が確認できるファイルをもとに、個別の管理を行っている。また、体調に応じその都度上申できる態勢にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	把握した嗜好や作業はその都度支援し、能力の向上、張りのある楽しみ作りにつなげている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的な外出支援の他、今行きたい思いにも極力対応できるよう態勢を調整している。	殆ど毎日全員が散歩に出かけて、日光浴や外気浴をしている。利用者の気持ちを大事にして、即日対応するようにして持ち越しをさせないように取り組んでいる。家族と一緒に旅行や外食を楽しむ方も半数以上いる。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームぽっかぽか

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設で管理している。能力に応じしばらく個人で管理している時もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	不安や相談事がある時は、時間を隔てずすぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて装飾を替え、くつろげる空間、気のあった同士が自由に使えるよう整備している。	玄関のドアを開けるとサンタクロースやクリスマスの飾りがあり、12月の外の寒さとはうらはらに、とても温かい色彩に彩られた共有空間がある。利用者と職員の共同制作の作品や、笑顔いっぱいの利用者の写真など、工夫が凝らされた装飾で、心地の良い場所となっている。大きなソファやテレビもあり、くつろぎの場所となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	小間、談話室、ホールに椅子を用意しテレビやアルバム、本など自由にくつろげる環境に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に椅子やアルバム等を整備し、人を招き入れられる環境に配慮している。	掃除の行き届いた明るい居室には、クリスマスの飾りがあったり、ご主人の大切な遺品がかけあったり、思い出の写真があたりで、あたたかく居心地のいい居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	身体能力に応じた居室位置、家具などの整備を行う。目印となる表札や表示もその都度変えている。		